

# 徳川家康公と岡崎

## 郷里で迎える四百年祭

### 岡崎城 家康公誕生の城

今年で没後四百年を迎える徳川家康公は、天文11年(1542)12月26日岡崎城内で誕生した。6歳で織田・今川の人質となり、幼少期を他国で過ごしたが、永禄3年(1560)桶狭間の戦いで今川義元が戦死したことをきっかけに自立した。以来、徳川家康公は、**岡崎城を拠点に天下統一のための基礎**を固めた。江戸時代には、岡崎城は「**神君出生の城**」として神聖視されるようになり、大名たちは岡崎城主になることを誇りとした。

現在の岡崎城は、歴史資料館として多くの人々に愛されている。

礎

### 大樹寺

悟

### 家康公を天下人へと導いた運命の寺

桶狭間の戦いで敗れた19歳の家康公は、大樹寺に逃げ込んだ。切腹しようとしたところ、13代住職登誉上人に『**厭離穢土 欣求浄土**』、「戦国の乱世を平和な極楽浄土にするのが使命」と諭された。大樹寺本堂から三門、総門を通して岡崎城を望み、泰平の世を築き上げることを決意した。以来、家康公は、この訓を**終生の座右の銘**とした。

そして、今もなお、この歴史的眺望は「ビスタライン」として受け継がれている。

